

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1751380245		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホームつばき・れんげ		
所在地	野々市蓮花寺町1番地1		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活が出来るように、洗濯物を職員と一緒に畳んだり、グループホーム内のペランダで野菜を育てて収穫したり、料理やおやつを作ったりして楽しんでいます。また、併設しているクリニックによる訪問診察や訪問看護により体調管理や緊急時の対応を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例年であれば、食材の買い出しに職員と一緒に近くのお店やスーパーに出かけたり、地域カフェでお茶を楽しんだりしていたのだが、今年はコロナのため、面会や外出も制限され、日曜日に一階のフロアを散歩するのが利用者の楽しみになっている。家族との面会はタブレットを使用したウェブ面会や、スマートフォンを利用して行っている。食事の献立は、旬のものを取り入れている。グループホームの菜園があり、一緒に収穫した野菜を食事に出している。また週2回は、利用者からリクエストがあったもの、あるいはこれまでもおいしいと評判の良かったものを出すようにしている。食事中は、馴染みのある音楽を流したり、食材の話、味の話、昔話など会話をしながら食事を楽しんでいる。この他、誕生会では、誕生者のリクエストに応えたメニューにしている。また月1回は、中庭の菜園で採れたサツマイモで大学芋を作ったり、ケーキを焼いたり、杏仁豆腐、水ようかん、おしろこ、白玉ぜんざいなどが好むものを手作りおやつで楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ渦の為、朝礼での唱和をする事は現在、行っておらず。グループホームの事務所に運営理念を掲げている。また、新人職員に対しては運営理念について法人全体研修を行っている	法人全体の基本理念が定められている。職員は理念が記載されたクレドを常に携行し、理念を共有している。入職時には、新人研修の一環として理念についての講義を行い、理念の実現に向けて努力している。管理者は、折に触れカンファレンスやミーティング、日々のケアの中でスタッフに理念について話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ渦の為 運営推進会議を行ったり施設行事へのお声掛けを行っておらず。2カ月に1回奇数月に市町村・地域の方々に活動・現状報告とお便りを郵送している。	例年であれば、食材の買い出しに職員と一緒に近くのお店やスーパーに出かけたり、地域カフェでお茶を楽しんだりしていたのだが、今年はコロナのため、面会や外出も制限され、日曜日に一階のフロアを散歩するのが利用者の楽しみになっている。家族との面会はアイパッドを使用したウェブ面会や、スマートホンを利用して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員や地域包括センターの方から頂いた情報やご意見などを活かせるように取り組んでいる。	会議は奇数月に、市の職員や地域包括、民生委員、家族等が参加して行ってきたが、今年は対面での会議は一回のみ実施して、あとは書面による報告となっている。会議ではグループホームだよりを配布して、活動報告、現況報告、コロナウイルス対応等について検討し、報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な情報やアドバイスを頂き、現場に活かせるように取り組んでいる。	今年、行政とともに、事業者同士が情報交換できる場として、野々市市地域密着事業者連絡会を立ち上げている。しかしその矢先にコロナのために、活動自体は中止に追い込まれた。市主催の研修も中止が相次ぎ、必要に応じて事務連絡を行う程度である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束廃止マニュアル”に基づき、ミーティングや申し送りの場で情報や問題を共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。建物4階にある施設であり、現在出入り口には施錠してある。	身体拘束廃止マニュアルがあり、研修はマニュアルをテキストにしてフロアミーティング時に教育訓練として行っている。毎月身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束について、センサーマットの使用について、眠剤の調整について、不適切ケアについて等の検討を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の方への対応について悩んでいる事、困っている事がないか聞き、共有の問題としてミーティング等で課題に上げ話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と連絡・連携をとり、対応出来るように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行い、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートや運営推進会議の場で提案や意見をお聞きし、その内容を反映出来るように心がけている。	いつもなら家族が来訪した折に、ゆっくり話して意見や要望を聴取しているが、今年は面会が出来ないため、電話や郵便でのやり取りで家族からの意見を聴いている。毎月グループホームだよりを送付して利用者の様子を伝えている。苦情の体制は、周知されているが、特に苦情は寄せられていない。毎年、アンケート調査を行い、その寄せられた意見をもとに改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で職員が意見や提案などを話せるように、また必要なことが反映出来るように努めている。	グループホームのほか老健やデイケア、デイサービス等が併設されている複合施設の施設長は、グループホームのかかりつけ医となっているため、日常的に職員意見を聴取している。管理者は、他の職員と同じシフト勤務を行っているため、ミーティングや申し送り以外にも職員の見解や提案を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から悩んでいる事や困っている事などがないか聞き また、自らも言えるような話しやすい関係性を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナ渦の為 研修は行えておらず。以前は内部・外部研修に参加出来るように努めていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ渦の為 行えておらず。以前は他の施設の交流や勉強会の取り組みを行っていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族のお話を聞いたうえで、安心して生活が出来るような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをお聞きし、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他サービスの利用にも応じられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が興味のある事や出来る事を継続していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は対面での面会は禁止になったが以前は感染防止対策を図り、面会を支援していた。現在はWEB面会にて会えるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ渦の為 外出は出来ておらず。以前は外出や買い物へ出掛けられるよう支援を行っていた。	お盆に墓参りに出かけたり、正月に自宅に帰ったりということは今年ではできなくなっている。病院の受診以外は現在外出はできないため、家族とは電話や郵便、ウェブ面会等という方法に限られている。利用者の居室には、家族の写真や馴染みの家具、テレビやラジカセ、大事にしていた人形等を持ち込んで自宅での生活が継続できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット同士の行き来で交流の場を設けたり、レクリエーションを行い楽しい時間を一緒に過ごせるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様子を伺いながらお声かけたり、必要なときは支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からお話を聞くとともに、職員間で情報を共有・交換しながら把握出来るように努めている。	利用者の話をよく聞いて、利用者の話す言葉に着目し、その意味や思いを推察することを積み重ねながら、利用者本位の意向把握ができるように努めている。そのために、スタッフ間で気づいたことを情報交換して共有している。また、家族からの情報も参考にして本人本位の検討ができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー、以前に利用していた他サービスの職員等から可能な限り聞き把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、少しでも情報が把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスで本人とご家族の思いを聞き、医師や看護師など他職種と連携しその内容を活かした介護計画の作成に努めている。	利用者の担当職員がアセスメントを行い、それを基に計画作成担当者が原案を作成し、多職種協働の下サービス担当者会議を開催している。計画は大きな変化がなければ、6か月ごとにモニタリング・評価を行い計画を更新している。介護経過記録には、ケアプラン2表の課題の番号を記載して記録をして、ケアプランとの連動を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録内容やミーティングでの話し合いから得た情報をケアに活かせるような介護計画覚醒に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の他職種と連携をとり、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ対策の為 近隣への外出や地域の集いに参加出来ておらず。以前は行っており支援を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックによる訪問診察を行い、必要な時に他医療機関に受診が出来るようにご家族と連絡を取りながら支援に努めている。	1名の利用者以外は、併設のクリニックがかかりつけ医となっている。月に2回の往診があり、夜間もクリニックがオンコール体制をとっているため利用者、家族の安心感は大きい。歯科や皮膚科の医師も往診してくれるところがあり、通院の場合には原則家族対応となる。入院や他科受診の場合にも、クリニックの医師が判断して、適切な医療を受ける事が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護に加え、体調の変化が見られた時は連絡して指示を受けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族からの連絡も含め状態が把握できるように、また退院にむけて相談が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今出来る事・出来ない事、そして今後についてご家族と話し合い、可能な限り支援に努めている。	事業所として、看取りは行っていないが同一敷地内に老健やクリニックがあるので、重度化した場合には連携をとり移行する場合が多い。グループホームには一般浴槽しかないので、重度化して入浴できなくなった場合には、併設のデイサービスの機械浴を利用して入浴している。また、褥瘡予防のために除圧マットを使用している人もいる。居宅介護支援事業所や地域包括等も併設しているので、様々なツールを活用し、連携しながら重度化に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED取扱いを学び、併設クリニックから救急対応について説明を受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	併設クリニックとの連携、緊急時の連絡網があり、何かあればすぐ対応することとなっている。	「リスクマネジメントマニュアル」が、各ユニットに置かれている。マニュアルには、「施設感染防止マニュアル」、「離棟・離設事故時対応マニュアル」、「与薬マニュアル」、「事故・ひやり報告マニュアル」など各種緊急時対応マニュアルがファイルされている。また、急変時の対応として、「緊急連絡網」、「救急車の呼び方」、「クリニックへの連絡・報告」や「誤薬防止マニュアル」など使用頻度や重要度の高いマニュアルは、事務所の壁に掲示され職員へ周知されている。この他、管理者は月1回のミーティングで、マニュアルの確認を促している。また、必要性の高いものについては、コピーし職員に渡し、ミーティング時に読み上げ周知している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	併設のクリニックと介護老人保健施設と支援体制が出来ている。	併設のクリニックが協力医療機関である。月2回の訪問診療と月2回の訪問看護が行われている。利用者1名以外は、併設のクリニックがかりつけ医となっている。緊急時や夜間等必要な時に対応してもらっている。この他、歯科と皮膚科の医師が、必要な時に往診してくれる。バックアップ施設は、併設の老人保健施設である。重度化した利用者の対応など情報交換をしている。以前は、ボランティアによる演劇などを見に行ったり来たりし、よく行き来していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	2ユニットに2名の夜勤者がおり、緊急時などは併設施設の応援も可能である。	ホームとしては、2ユニットなので2人夜勤である。ただ、併設の老人保健施設があり、救急車を呼んだ場合等の応援は可能である。また、防災センターに職員が宿直しており、緊急時等必要な対応がされる。利用者の状態に変化があった場合は、クリニックの看護師に連絡を入れ、看護師が医師に連絡を取り、指示が出されている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。災害について地域との体制は出来ていない。	令和2年6月に安全行動と通報訓練、11月に消火訓練と通報訓練が実施されている。訓練実施前に「訓練要項」が作成され、その要項に基づき訓練が実施されている。訓練後は、グループホームとして「防災訓練実施報告書」を作成し、防災意識の向上に努めている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	食料・飲料水の備蓄があり、リストで賞味期限を見ながら入れ替えている。	「防災維持管理台帳」の中に「消防計画」、「地震時マニュアル」、「洪水時の避難確保計画」などがファイルされている。また、「防災マニュアル」があり、火災、地震、風水害豪雪への対応が記載されている。また、食料、飲料水、カセットコンロなどの防災用品が備蓄されている。リストは事務所の冷蔵庫に貼られており、賞味期限等を確認して入れ替えている。マニュアルの職員への周知は、月1回のミーティングでマニュアルを確認することを促している。そして、重要だと思われるものについてはコピーを配布し、読み合わせをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや申し送りの場で個人の現状や対応について話し合い、情報を共有してケアしていけるように努めている。	利用者の思いを受け止めるように努めている。利用者の好きなこと、嫌いなこと、やりたいこと、面倒なことなどを職員間で共有することで、利用者へのんびり生活してもらえるよう配慮している。そのため、一律な対応ではなく、その時の思いに沿えるよう、職員間で話し合いながら支援に当たるよう努めている。プライバシーについては、利用者の前では、個人的なことは話さないようにしている。ただ、そこで話をしなければならない時には、イニシャルを使うなど職員間だけで理解できる会話の方法を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事・嫌いな事・やりたいこと・面倒な事などを理解し、思いを受け止められるように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律な対応ではなく、その時の思いに添えるよう、職員間で話し合い支援出来るように努めている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が必要とされる物についてはご家族に連絡を取り、持ってきて頂いている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの菜園にて一緒に野菜を収穫したり、おやつを作ったりする事を心がけている。	献立は、旬のものを取り入れている。グループホームの菜園があり、一緒に収穫した野菜を食事に出している。また週2回は、利用者からリクエストがあったもの、あるいはこれまでおいしいと評判の良かったものなどを出すようにしている。食事中は、馴染みのある音楽を流したり、食材の話、味の話、昔話など会話をしながら食事を楽しんでいる。この他、誕生会では、誕生者のリクエストに応えたメニューにしている。また月1回は、中庭の菜園で採れたサツマイモで大学芋を作ったり、ケーキを焼いたり、杏仁豆腐、水ようかん、おしるこ、白玉ぜんざいなど皆が好むものを手作りおやつで楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や咀嚼能力、水分摂取量を考えて、過不足が出ないように努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からのアドバイスを活かし、個々の状態にあったケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じたケアが出来るように話し合い、検討しながら支援に努めている。	排便・排尿の記録を取り、利用者の排泄状況を把握している。それによりトイレへの声かけを行ったり、便秘を解消し健康に過ごせるように配慮している。毎日体操を行い、可能な方には毎食ヨーグルトを提供したり、水分の摂取量に配慮し、起床時に白湯を飲むなど工夫している。それでも便秘が解消されない場合は、医師の指示で薬剤による調整を行い便秘解消に努めている。またバルーンを使用している方で、朝の定時にトイレ誘導することでトイレで排泄ができており、排泄パターンや習慣を生かして排泄の自立に向けた支援を行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、可能な方には毎日ヨーグルト食べて頂いている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴してもらえるように、体調や気分を優先し、声掛けや準備にも気をつけて支援している。	お風呂は各フロアとも、月曜日から水曜日までに1回、木曜日から日曜日までに1回、週2回は入浴してもらうように支援している。気持ちよく入浴してもらえるように、体調やその時の気分を優先している。そのため、入浴の拒否があった場合は、無理強いせず日を変えるようにしている。利用者のうち5名が車椅子を利用している。浴槽のまたぎができない方については、デイサービスの機械浴を利用し、安全にそして安心して入浴してもらっている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たい時、休みたい時に休息出来るよう、また必要な寝具は家族と連絡をとりながら支援に努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容が変更になった時は申し送りで周知出来るように、また状況に変化があった時はすぐ主治医に連絡出来るように努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人からの話やご家族から得た情報をもとに、自分らしく楽しみを持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦の為 外出は出来ておらず。以前は外出や買い物へ出掛けられるよう支援を行っていた。	今年度は、外出はしていない。昨年までは、ドライブに行ったり、買い物に出かけたり、近所に散歩に出かけたりしている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、コロナ対策の為 お金を使えるよう支援を行っていない。以前は買い物や自動販売機などでご自分が払えるように支援を行っていた。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば出来る限り支援していく。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を掲示したり、季節に応じた飾り物を見て心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	リビングで過ごす方も多いので、一緒に歌を歌ったり、トランプやかるた、体操などのレクリエーションで楽しんでいる。室温や湿度は、日勤帯1回、夜勤帯1回必ずチェックし、快適に過ごせるよう配慮している。リビングの季節に応じた飾りつけは、月担当を決め毎月行っている。ちぎり絵など、皆で取り組んで作成するものもある。また、趣味的な活動として、書道やぬり絵、生け花など、あるいは行事等に撮った写真を廊下や壁などに掲示し、季節を感じたり、見て楽しんだり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・廊下に長椅子をおき、散歩の途中や疲れた時などに誰でも座れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前やトイレなどに分かりやすく名前が貼ってあり、迷わず生活できるように努めている。	居室には、クローゼット、洗面台、ベッド、椅子、テーブルが取り付けられている。入居の際は、家族の写真や馴染みの家具、人形、オシャレなテーブル、テレビ、ラジカセなどを持ち込んでいる方もいる。利用者のADLが低下してきており、居室で過ごすことが多くなっている方が増えている。そのため、居室は自分の空間だと思って、気楽に、自由に過ごしていただくように配慮している。気持ちよく過ごしていただくために、居室の清潔を保ち、換気や空調管理に配慮している。また、安全の確保のため、必要な方には家具の配置を工夫し、動線を確保するよう努めている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレなどに分かりやすく名前が貼ってあり、迷わず生活できるように努めている。		